

ふるさと鳥栖を愛し、グローバル社会に 羽ばたく「とすっ子」の育成をめざして

地域の
特色ある
活動

佐賀県鳥栖市教育委員会

1 はじめに

鳥栖市は、九州の交通の結節点として多くの民間企業が進出してきており、現在、人口7万3千8百人。これからの10年間は、人口が増加する傾向にある元気ある都市です。学校は、小学校8校、中学校4校であり、本市の教育の特徴として教科「日本語」を市内全12校でスタートして今年で6年目になります。

スタートした背景には、子供たちの語彙の乏しさがありました。近年、生徒指導の際などに子供たちと接していますと「うざい」や「きもい」という言葉を筆頭に、言葉は短縮され多くのニュアンスを含むようになり便利になる一方で、子供たちが使用する語彙が非常に少なくなってきたように思います。

この教科「日本語」は、語学としてのみ学ぶものではなく、日本語のもつリズムや響き、言葉そのものの美しさを味わったり、ふるさとの良さを見つめ直したりして学ぶという目的のための方法の一つと捉えています。鳥栖市で育った子供たちには、世界に羽ばたいてほしいと願い、実施に踏み切りました。世界で活躍していくためにはアイデンティティーを確立することが必須であり、そのためには、日本人の心や所作、鳥栖市の良さに気付いてほしいと考えています。

さらには、平成22年度から市内の小中学校で小中一貫教育を開始していますが、鳥栖市の場合は、小学校と中学校とが離れた場所にあるため施設分離型で実施しています。そ

の中で、小中9年間の一貫教育の大きな柱の教科として、教科「日本語」を捉えた意図があります。

2 めざす目標と内容

(1) 目標

日本の言語や文化に親しむことにより、日本語のもつ美しさや、日本人が持っている感性、情緒を養い、日本人としての教養を身に付け、我が国の言語や文化を継承し、新たな創造へとつないでいく態度を育てる。

(2) 内容四つの領域

【内容】

- ・言語活動を通して、表現力、コミュニケーション能力を身に付ける学習です。
- ・日本の古典や詩歌等の有名な文の朗読暗唱を通して、日本語の響きやリズムを楽しみ、味わう学習です。
- ・鳥栖市や佐賀県、日本の伝統文化に親しむ学習です。
- ・あいさつの仕方、人と接するときのマナーの大切さを学び、身に付ける学習です。

【領域】

- ①「言語」⇒ 詩、ことわざ、慣用句 等
- ②「伝統的言語文化」⇒ 昔話、神話・伝承、俳句、論語 等
- ③「伝統文化」⇒ 伝承遊び、川柳、能楽、落語、鳥栖市や佐賀県の文化・歴史 等
- ④「礼儀作法」⇒ あいさつ、日本の衣食住文化 等

(3) 教科書

用意した教科書は、小学校低、中、高学年用と中学生用の4種類です。平成29年度には、教科書の内容を見直し、教科書の改訂を行いました。小中学校ともに教科専門性ではなく、基本的に各学級担任が授業を行うようにしています。授業は、それぞれの担任が指導の手引き書を活用しますが、各担任のアイデアで魅力的な授業を実現するため、指導法には柔軟性をもたせるようにしています。



教科「日本語」の教科書

3 教科「日本語」の授業の実際

(1) 教師の得意を生かした授業の一例

○小学6年『「道」がつく文化』

- ・剣道の経験がある教師により、武道の「礼に始まり、礼に終わる」ことを学ぶ。



剣道経験者3人による授業

(2) ゲストティーチャーによる授業の一例

○小学5年（左）『和室での過ごし方を知ろう』

○中学1年（右）『礼儀作法は自分と他人のためのもの』

- ・礼儀作法に通じたゲストティーチャーを招聘し、和室での過ごし方を学ぶ。



ゲストティーチャーに指導を受ける小中学生

(3) 小学生と中学生との交流授業の一例

- ・小学生が学んだ内容と、中学生が学んだ内容のうち、共通するもので交流を図りながら楽しく学ぶ。



おせち料理を基に交流



昔遊びを基に交流

4 教科「日本語」に期待するもの

一つ目は、学力の向上につながることで、子供たちが、詩歌や俳句などの様々な表現に触れることで、語彙が増えるだけでなく、思考力と表現力を伸ばせるのではないかと考えています。教科「日本語」で培われた力が、他教科等と補完し合うことで、理解を深めていくことを期待しています。

二つ目は、日本の伝統文化に触れることで、日本人の感性や情緒、特徴を感じることができるようになることです。学習を通じて日本人としてのアイデンティティーを育み、地域を愛し、国際社会で活躍する日本人が育つことを期待しています。

三つ目は、新学習指導要領に即した教科「日本語」の取組が、授業改善につながることで、学びの本質として重要となる「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、この教科「日本語」の授業は、大変取り組みやすい教科の一つです。若い教員が増える中、教師の指導力向上にもつながっていくことを期待しています。

5 おわりに

現在、コロナ禍の中で、他教科を含めゲストティーチャーによる授業や、小中学生の交流授業は細心の注意が必要となり、厳しい状況にあります。しかしながら、単元に軽重を付けるなどのカリキュラム・マネジメントを行いながら進めているところです。平成30年度には、鳥栖市で初となるコミュニティ・スクールにも取り組み始めました。教科「日本語」を中心として、これまで以上に地域との連携を図っていきたいと考えています。今後も、鳥栖市を愛し、グローバル社会に羽ばたく「とすっ子」の育成に努めます。



教育長
天野 昌明